

会議録

会 議 名	第3回 新郷土資料館整備基本構想・基本計画策定検討会	
日 時	平成28年10月7日(金)午後18時30分~20時30分	
場 所	クリエイトホール11階第7学習室	
出席者氏名	参加者	新井勝紘、池上裕子、大森映子、小野一之、柿崎博孝、唐沢靖、合田恵美子、高橋洋、竹口君夫、内田和隆、及川真由美、本田怜子
	説明者	中正由紀文化財課長(兼郷土資料館長)、尾崎光二主査
	事務局	中村善行主査、河津美穂子主任 (株)丹青社 小杉、鈴木、丹羽
欠席者氏名		
議 題	<ul style="list-style-type: none"> (1)パブリックコメント案(閲覧用)について【資料1】 (2)パブリックコメント案(配布用)について【資料2】 (3)基本構想第1章構成修正案について【資料3】 (4)基本構想第2章構成修正案について【資料4】 (5)基本構想第3章構成修正案について【資料5】 (6)その他 	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	1名	
配付資料名	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会議次第 (2) 【資料1】パブリックコメント案(閲覧用) (3) 【資料2】パブリックコメント案(配布用) (4) 【資料3】新郷土資料館整備基本構想 第1章構成修正(案) (5) 【資料4】新郷土資料館整備基本構想 第2章構成(案) (6) 【資料5】新郷土資料館整備基本構想 第3章構成(案) (7) 基本構想・基本計画策定に向けたヒアリングシート(案) (8) 第4回検討会の開催概要 	

会議の内容

<開会の挨拶>

事務局：それでは第3回検討会を始める。今回の署名は柿崎氏にお願いする。会議資料は、資料1と2は事前に送付したが、資料3～5の出力見本の配布は本日となった。また、資料6として基本構想を検討するための市民ヒアリングの案を配布する。

<(1) (2)パブリックコメント案（閲覧用）・（配布用）について>

座長：それでは会議次第に基づき会議を進めたい。事務局から説明して欲しい。

事務局：市の条例により、広く市民の意見をいただく場合に、パブリックコメントの形式を用いる。基本的に30日間以上の募集期間を設ける。パブリック案は、閲覧用と、市民の方が持ち帰る配布用（裏面に意見書をつけた概要版）の2種類を作成する。内容は基本構想1～3章の概要とし、閲覧用の最後には今後のスケジュールを付記した。

座長：パブリックコメント案について、ご意見があるか。

参加者A：資料1の6.今後のスケジュールでは、平成30年度以降に記されている「実施設計」は、展示の実実施設計と考えて良いか。

事務局：本来、展示に関する工程は、基本設計、実施設計の後、展示工事となる。建築も同様となる。

参加者A：第1回検討会での配布資料のように、平成30年度以降は矢印をまとめてはどうか。

事務局：表現を検討したい。

参加者A：資料1の6ページに記される「遠隔講座」とはどのようなものか。

事務局：出張講座とは異なり、インターネットを活用した遠隔地のサテライト会場向けの講座である。

参加者B：5ページの憩いライブラリはどのような機能となり、資料館とはどのような関係となるのか。

事務局：まだ市として憩いライブラリは検討中だが、近年、TSUTAYA図書館や武蔵野プレイスなど、従来の図書館の枠に当てはまらない、色々な人が集い、交流できる施設なども参考になると考えている。

参加者B：調査研究機能は、憩いライブラリの方では考えておらず、博物館の方で担う方針か。

事務局：相互連携は必要であり、現状は憩いライブラリの内容が明確でないが、まずは博物館の中で整備する考えである。

参加者C：市民の方の率直な意見を聞きたいのであれば、色々な意見を出したくなるようにパブリックコメント案の内容を工夫してはどうか。また、市民は従来型の博物館とどう違うのかが気になるはず。「拡張機能」というと硬い印象で、協創するためにどういう施設になるのかを具体的にイメージできるようにして欲しい。

会議の内容

事務局：色々な世代の方が理解できるように表現を検討したい。

副座長：私が読んだ印象では、5ページの「サードプレイス」や「憩いライブラリ」、6ページの「協創」などの言葉が理解しづらい。一般市民の言葉を引き出すには、事例を出すなどもう少し具体的にイメージできるようにしては。

事務局：スターバックスの社長は、イタリアのカフェバーの雰囲気の良い、市民がその場を愛していることに感銘を受け、「サードプレイス」を意識した店づくりを始めた。ここは色々な人が集まり、コミュニティができる場としたい。八王子の事を考え、学び、好きになってもらいたいと考えている。

副座長：市内の「赤ちゃん・ふらっと」の博物館版という感じか。

事務局：特定の目的が無い人も訪れて良いと思う。

副座長：フラット行ってコーヒーを飲みながら景色を見たり、博物館に行って歴史を調べたり、色々な事ができるということか。

参加者D：公民館のようなフリースペースでなく、郷土資料館として、昔ながらの芸能を上演したり、地域のお年寄りの話を聞くなど、柔らかいスペースだと思う。「拡張機能」は確かに硬い表現だが、新たな機能となる目玉だと思うので、強調してはどうか。

座長：新郷土資料館と憩いライブラリ、公園の関係性がはっきりしていないが、今後話し合いをする予定か。

事務局：今後、役割分担を話し合う予定である。

参加者E：パブリックコメントの意見募集対象は、市外からの来館者など、広げられるのか。

事務局：八王子市に関連する方を対象とし、それ以外の方の意見は、別途違う形で聞き取れればと考えている。

座長：パブリックコメント案は、基本構想を要約し過ぎと感じる箇所もある。例えば、第1章で入館者数は減少したが、展示替えやボランティアなど色々な対策をしたことなどの実績を入れては。また、まちづくりや観光は、八王子市の課題の中で述べられているだけだが、基本方針や方向性でもっとアピールしてはどうか。また、今後のスケジュールは、展示設計を展示基本設計と展示実施設計とし、最後を「新館オープン」などとしてはどうか。

参加者C：私が8年間協力した市史編纂では沢山の資料を集めたが、この事を基本構想でも一言触れて欲しい。

事務局：検討したい。

参加者B：調査研究機能では、新たな価値を発見すると書いているが、まずは調査研究の体制強化が重要。資料館職員の調査研究体制強化もあるが、利用者が調査研究できる場の整備として資料を公開・利用できるようにすると触れて欲しい。市民の知的好奇心に応えるだけでは軽い。

<p>会 議 の 内 容</p>	<p>参加者 F：パブコメ案（配布用）の趣旨の部分が簡単過ぎると感じた。平成 26 年度から活用専門家会議などがあり、一度はパブリックコメントを行ったことや、前回のパブコメ結果はネットなどで閲覧できることを記してはどうか。前回のパブコメについて知らない方もいるだろう。</p> <p>参加者 G：先日、教育センターや旧稲荷山小学校で保管資料を見学した際、小学校に旧高尾自然科学博物館の自然系資料もあった。八王子は自然が豊かなので、自然系の展示も入れて欲しい。観光の視点でも、京王片倉駅から徒歩で訪問できるので、高尾山観光客も取り込めるのでは。</p> <p>事務局：先日、市議会からも同様の意見を頂いた。地形や自然と歴史は密接な関係なので、今後しっかり検討したい。</p> <p>座長：以上で次の議題に移る。追加の意見はメール等で事務局に寄せて頂きたい。</p> <p><(3) (4) (5)基本構想第1～3章構成修正案について></p> <p>事務局：基本構想第1～3章の内容を、パブコメ案を作成する過程で合わせて修正した。「1-1.八王子の歴史・文化の特徴」は、今後内容を充実させる予定。次回検討会でまとめてご意見を頂きたい。</p> <p>参加者 E：1-1 の書き出しで、八王子の歴史の始まりが旧石器時代と書いてあるが、縄文時代のところに書いてあるように、遺跡の箇所数や名称を年代は記さないのか。</p> <p>事務局：八王子の場合は、記述することがなかなか難しい。</p> <p>参加者 H：一般的に旧石器時代の捉え方は難しいので、あまり具体的に記述しなくても良いと考える。</p> <p>参加者 B：「1.八王子市郷土資料館の沿革」の中で八王子の歴史・文化の特徴が入るのは違和感がある。この中に入れるのであれば、どう扱ってきたかを触れるか、沿革の前に「はじめに」や「序」などとしては。また、縄文の次に八王子城を紹介するのは飛躍している。畑作や稲作、マチ、ムラができた過程で人が中心になった経緯を記述してはどうか。</p> <p>座長：全くその通りだ。</p> <p>参加者 C：歴史・文化の特徴の最後が空襲で終わっているが、現代史が全然無い。もっと蓄積があると感じる。</p> <p>事務局：内容を検討したい。</p> <p><(6) 基本構想・基本計画策定に向けたヒアリングシート(案)について></p> <p>事務局：パブリックコメント案とは別に、広く意見を集めるため、後取り込みたい層の若い世代にヒアリングを行ってはどうかと考えている。今回提示した例は、小中学校を対象とするヒアリング項目案。どのような設問をどのような形式で行うのが良いか、ご意見を頂きたい。</p>
------------------	---

会議の内容

副座長：まずは学年と、サンプル数の目標を設定する必要がある。3年で郷土資料館を訪問する学校が多いので、3年以上はイメージしやすいだろう。6年で通史を勉強する。またエリア設定は、近隣の三小や五小、遠方の川口小や七国小などに聞いては。10校程度を対象にし、私から声をかけて1,000人程度の回答は回収できると思う。

事務局：以前、別の部署で、回答数が500程度あれば有効な分析ができると聞いたことがある。

参加者D：中学校は通史を学び、学校ごとに郷土学習や郷土資料館の扱い方が異なるので、確認する必要がある。郷土学習は総合的な学習の時間などで対応している。また、現案ではヒアリング項目がかなり広いと感じる。

参加者E：ヒアリングを行う場合、実施目的を示す必要があると感じる。

参加者I：ヒアリングの目的は、拡張機能の参考としてか。それとも来て欲しいからか。また、時間をとって行う方法に疑問を感じる。

事務局：資料館にはそもそも若い世代の来館が少ないので、考えや指向性を把握したいと考えている。

参加者D：郷土資料館の認知度を聞くのか、郷土学習について聞くのかを検討しては。後者だと広がる。

事務局：未来を担う世代に、郷土について知ってもらうにはどのような場である必要があるかを把握するための基本調査として位置付ける。展示をはじめ、子どもの視点では何があると良いかを知りたい。

副座長：現状はあまり小中学生が利用していないと考えるので、新郷土資料館ではもっと連携し、より魅力的な施設にしたいと示しては。子どもは触られる物があれば行くと思う。

参加者A：今回のヒアリングはどのような扱いか。別途世論調査も行うのか。

事務局：市の実施する世論調査に項目を入れることも考えるが、そちらの対象は成人で、項目範囲も広い。今回は、若い世代も対象に、資料館についてのヒアリングとしたい。

事務局：これまでも来館者アンケートは実施してきた。また、小学校は約45校来る。今年は第五中が全校で初めて来館した。他にも4,5校毎年来館する。高校は毎年1校来館する。

参加者D：学校との連携として、教員に対してはどのような機能があれば利用しやすいかを聞いては。子どもに対しては、今度新しく郷土資料館を作るが、映像を見る、資料に触るなど、やりたいことに丸をつけて欲しい、などの形式にしては。

参加者H：先々週から大学の学芸員養成課程を担当しているが、大学生を対象にする場合は、記述式のヒアリングにしてはどうか。本音を聞き出すのは難しいため、毎年ワールドカフェ形式で意見を出させている。

会議の内容	<p>座長：事務局で趣旨の設定などの仕切り直しをお願いする。最も重要な設問は「なぜ郷土資料館に行かないのか」だと思う。</p> <p><(7)その他></p> <p>事務局：次回の第4回検討会は、10月25日(火)18:30~20:30にクリエイトホール10階の第5学習室で開催する予定。主な議題は、パブコメ案最終案の確認と、基本構想1~3章の構成修正案、4章の施設構成の方向性についてなどを予定している。また、第5回検討会や、府中市郷土の森博物館見学会の日程調整も後日させて頂きたい。</p> <p>座長：これにて第3回検討会を閉会する。ありがとうございました。</p>
-------	--